

エコアクション 21  
環境経営レポート

実施期間： 2023/11/01～2024/10/31  
(第 86 期)

日本重工化学株式会社

Rev.1.50

## 改版履歴

Rev.	改版日付	作成者	改版内容
1.0	2019/12/15	庄司 大祐	初版
1.1	2021/01/25	庄司 大祐	2019/2020 年度（第 82 期）中間審査対応
1.20	2022/01/03	庄司 大祐	2020/2021 年度（第 83 期）更新審査対応
1.30	2023/02/03	庄司 大祐	2021/2022 年度（第 84 期）中間審査対応
1.40	2024/02/01	庄司 大祐	2022/2023 年度（第 85 期）更新審査対応
1.50	2025/02/10	庄司 大祐	2023/2024 年度（第 86 期）中間審査対応

## 目次

Ch.1	組織の概要	3
a)	事業所名および代表者氏名	3
b)	所在地	3
c)	環境管理責任者の氏名および担当者の連絡先	3
d)	事業活動内容	3
e)	事業規模	3
f)	対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間および発行日	3
Ch.2	EA21 実施体制図	4
Ch.3	環境経営方針	5
Ch.4	環境経営目標	6
Ch.5	環境経営計画	7
Ch.6	環境経営目標の実績	8
Ch.7	環境経営計画の取組結果と評価、今後の取り組み	9
Ch.8	次年度の環境経営目標と環境経営計画	10
Ch.9	環境関連法規等の順守状況の確認	11
a)	当社における環境関連法規等とその評価	11
b)	違反・訴訟等	11
Ch.10	全体評価と見直し結果・指示	12
a)	項目別の評価について	12
b)	次年度以降の課題について	13
c)	総評	14

## Ch.1 組織の概要

### a) 事業所名および代表者氏名

会社名： 日本重工化学株式会社（本社・工場）

代表者： 代表取締役 庄司 大祐

### b) 所在地

本社・工場

〒451-0015

愛知県名古屋市西区香呑町 6-15

電話：052-531-0843 / FAX：052-531-8170

### c) 環境管理責任者の氏名および担当者の連絡先

環境管理責任者： 代表取締役： 庄司 大祐

担当者： 代表取締役： 庄司 大祐

（連絡先は上記所在地に同じ）

### d) 事業活動内容

化学薬品・染料等の受託加工及び販売

### e) 事業規模

法人設立： 1939 年（1925 年創業）

資本金： 1,000 万円

従業員数： 5 名（2025 年 01 月現在）

### f) 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間および発行日

#### (1) 対象範囲（全組織・全活動）

対象組織： 日本重工化学株式会社（本社・工場）

対象活動： “d) 事業活動内容”に記載の通り

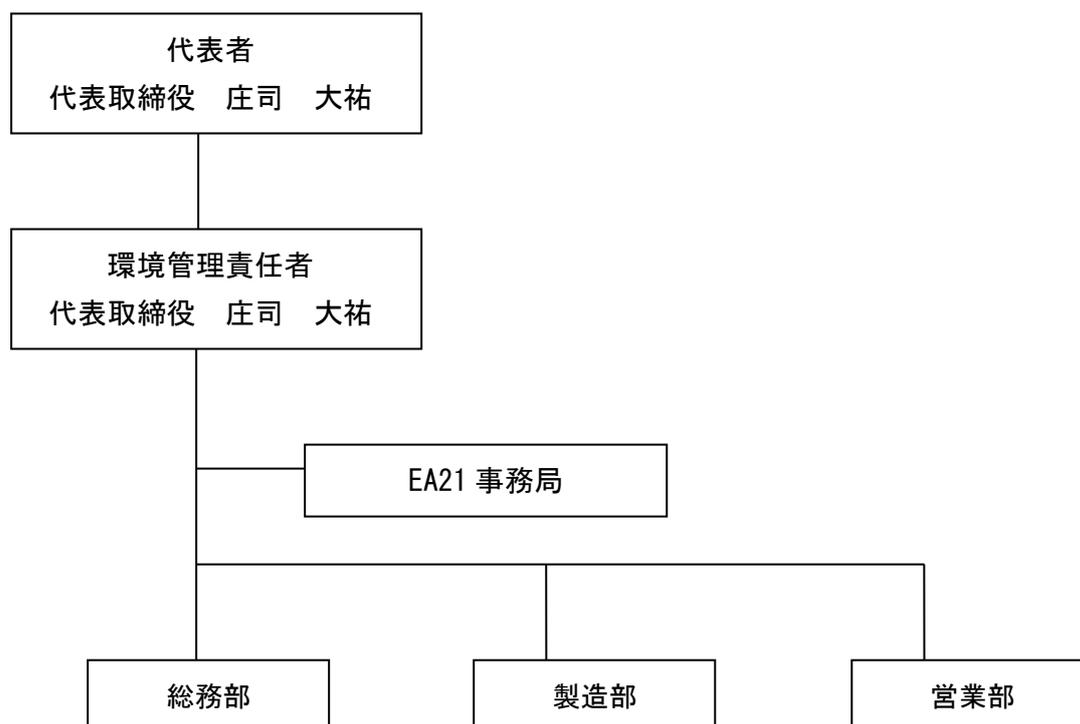
#### (2) レポートの対象期間

2023 年 11 月 01 日 ～ 2024 年 10 月 31 日（第 86 期(2023 年度)）

#### (3) レポート発行日

2025 年 02 月 10 日

## Ch.2 EA21 実施体制図



	担当	役割・責任・権限
代表者	代表取締役 庄司 大祐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の評価と見直し及び、承認</li> <li>・ 環境管理責任者の任命</li> </ul>
環境管理責任者	代表取締役 庄司 大祐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境方針の策定</li> <li>・ 資源（人員・設備・費用等）の準備</li> <li>・ 外部からの苦情等の受付</li> </ul>
事務局	総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営システムを構築・運用・維持し、その状況を代表者に報告</li> <li>・ 環境活動レポートの作成</li> <li>・ 環境関連文書及び記録の作成・管理等</li> <li>・ 環境活動計画の実施状況確認</li> </ul>
製造部	製造部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部門の環境目標及び環境活動計画の運用管理</li> </ul>
営業部	営業部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部門の環境目標及び環境活動計画の運用管理</li> </ul>
全従業員		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境方針の理解と環境への取組みの重要性の理解</li> <li>・ 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

(fig.2.1)

## Ch.3 環境経営方針

### 環 境 経 営 方 針

当社は、染料・化学薬品の製造の事業活動において、環境に影響する業務があることを認識し、環境経営システムを構築し、運用・維持することにより、自主的・積極的に、環境への取組を推進致します。

また、本取組を持続可能なものとして進めていく事と致します。

1. 環境関連法規則や当社が約束したその他の要求事項を遵守します。
2. 次の事項について具体的な環境経営目標・環境経営計画を定め実施します。
  - (1) 省エネルギーに取り組み二酸化炭素の排出量を削減します。
  - (2) 分別の徹底・リサイクルの推進につとめ廃棄物排出量を削減します。
  - (3) 節水につとめ水の使用量を削減します。
  - (4) 化学物質の取扱いに関し、その適正な管理に努めます。
  - (5) 製造工程での待機電力等、余分なエネルギーを使わぬよう努めます。
  - (6) 社内だけでなく、顧客に対し、環境への配慮等の啓発を行ないます。
  - (7) 副資材（製品の包装材等）の選定時において、環境に配慮した製品の使用に努めます。
  - (8) 地域における社会貢献活動を積極的に行います。
3. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日 2019 年 08 月 01 日

日本重工化学株式会社

代表取締役 庄司 大祐

## Ch.4 環境経営目標

### 環境経営目標の設定について

第 83 期(2020 年度)に目標値を設定する際、新型コロナウイルス感染症による影響を受けた結果を基準とすることは適当ではないと判断し、環境経営目標の設定に第 80 期(2017 年度)の結果を基準とすることと致しました。

本目標を定めた昨年度、新型コロナウイルス感染症による影響も一段落し、新たなステップへ踏み出すため、新たな目標値を設定致しました。

目標項目	単位	基準年度 第85期	年度目標(中期)		
			第86期	第87期	第88期
<b>CO2排出量の削減</b>					
CO2排出量の削減	kg-CO2	13593	13457	13321	13185
			1%削減	2%削減	3%削減
電力使用量の削減	kWh	15509	15354	15199	15044
			1%削減	2%削減	3%削減
ガソリン使用量の削減	L	2157	2135	2114	2092
			1%削減	2%削減	3%削減
ガス使用量の削減	m <sup>3</sup>	638	632	625	619
			1%削減	2%削減	3%削減
<b>廃棄物の削減</b>					
一般廃棄物の削減(※1)	袋	3360	3326	3293	3259
			1%削減	2%削減	3%削減
<b>節水</b>					
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	705	698	691	684
			1%削減	2%削減	3%削減
<b>化学物質</b>					
化学物質の適正管理	回/月	1	1	1	1
原料のSDSの授受・管理	○/×	○	○	○	○
<b>環境配慮</b>					
副資材のグリーン製品使用	○/×	○	○	○	○
<b>社会貢献</b>					
会社周辺の清掃	回/月	1	1	1	1

(fig.4.1)

- ※1 廃棄物の袋当たりの重量は 2kg として換算 (実測平均値)
- ※ 1939 年の法人設立を第 1 期とし、基準年度の第 85 期 (2022 年度) が 2022/11/1~2023/10/31 となります。
- ※ 電力の CO2 排出係数は中部電力 2022 年実績値(0.459 調整後)を使用しております。

## Ch.5 環境経営計画

目標項目	取組内容	担当部署
<b>CO<sub>2</sub> 排出量の削減</b>		
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギーステッカーの貼付</li> <li>・待機時の電源 OFF</li> <li>・不使用機器の電源 OFF</li> <li>・休憩時等の不使用機器の電源 OFF</li> <li>・空調機器の温度設定の見直し</li> <li>・照明器具の省エネルギー製品への交換</li> </ul>	全部署
ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗用車におけるエコドライブを実施</li> <li>・フォークリフトにおけるエコドライブを実施</li> </ul>	営業部 製造部
ガス使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機時の電源 OFF</li> <li>・ボイラー使用日の集約</li> </ul>	全部署
<b>廃棄物の削減</b>		
一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分別の徹底</li> <li>・裏紙の使用等、リユースの促進</li> </ul>	全部署
<b>節水</b>		
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水を意識した機器洗浄を行なう。</li> </ul>	製造部
<b>化学物質</b>		
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在庫状況等の適正化 (月に 1 度、数量・状態のチェックを行なう)</li> </ul>	製造部 営業部
原料の SDS の授受・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規案件に関しては必ず SDS を受け取り、適正に管理を行なう。</li> </ul>	製造部 営業部
<b>環境配慮</b>		
副資材のグリーン製品使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副資材の選定時、グリーン製品の活用を促す</li> <li>・顧客に対し、グリーン製品の活用を促す</li> </ul>	営業部
<b>社会貢献</b>		
会社周辺の清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社周辺にて月 1 回、清掃活動を行なう</li> </ul>	総務部

(fig.5.1)

## Ch.6 環境経営目標の実績

実施期間(第 86 期:2023 年 11 月~2024 年 10 月)の実績と基準年度(第 85 期 2022 年 11 月~2023 年 10 月)との比較

目標項目	単位	基準年度 第85期	目標	実績	増減	評価
			第86期	第86期		○/×
<b>CO2排出量の削減</b>						
CO2排出量の削減	kg-CO2	13593	13457	13946	3%	×
			1%削減			
電力使用量の削減	kWh	15509	15354	16470	6%	×
			1%削減			
ガソリン使用量の削減	L	2157	2135	2164	0%	×
			1%削減			
ガス使用量の削減	m <sup>3</sup>	638	632	596	-7%	○
			1%削減			
<b>廃棄物の削減</b>						
一般廃棄物の削減(※1)	袋	3360	3326	3200	-5%	○
			1%削減			
<b>節水</b>						
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	705	698	694	-2%	○
			1%削減		-	
<b>化学物質</b>						
化学物質の適正管理 (在庫数量・状態のチェック)	回/月	1	1	1	-	○
原料のSDSの授受・管理(※2)	○/×	○	○	○	-	○
<b>環境配慮</b>						
副資材のグリーン製品使用	○/×	○	○	○	-	○
<b>社会貢献</b>						
会社周辺の清掃	回/月	1	1	1	-	○

(fig.6.1)

- ※1 廃棄物の袋当たりの重量は 2kg として換算 (実測平均値)
- ※2 新規の取り扱い物質に関し、必ず SDS の授受・管理を行なう
- ※ 電力の CO2 排出係数は中部電力ミライズ 2022 年実績値(0.459 調整後)を使用しております。

## Ch.7 環境経営計画の取組結果と評価、今後の取り組み

目標項目	取組内容	結果	評価・次年度の取り組み
<b>CO2 排出量の削減</b>			
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギーステッカーの貼付</li> <li>・待機時の電源 OFF</li> <li>・不使用機器の電源 OFF</li> <li>・休憩時等の不使用機器の電源 OFF</li> <li>・空調機器の温度設定の見直し</li> <li>・照明器具の省エネルギー製品への交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎</li> <li>◎</li> <li>◎</li> <li>◎</li> <li>○</li> <li>△</li> </ul>	省電力機器への置き換えを行なっているが、本年度は頻度が鈍化している。順次、進めていく予定である。気候により温度設定等を変更せざるを得ない場合が増えており、何か対策の検討が必要である。
ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗用車におけるエコドライブを実施</li> <li>・フォークリフトにおけるエコドライブを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎</li> <li>◎</li> </ul>	アイドリング中のエンジンオフ等の取り組みを行なっており、これを継続していく。
ガス使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機時の電源 OFF</li> <li>・ボイラー使用日の集約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎</li> <li>○</li> </ul>	待機時の電源を落とすことを実施しているが、ボイラーの使用頻度が低下しており、ガスの使用量も自ずと減少している。
<b>廃棄物の削減</b>			
一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分別の徹底</li> <li>・裏紙の使用等、リユースの促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	分別等を行なっているが、削減に向けた取り組みが必要であると思われる。
<b>節水</b>			
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水を意識した機器洗浄を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎</li> </ul>	機器洗浄時、こまめに水を止める等の取組を行なっており、これを継続する
<b>化学物質</b>			
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在庫状況等の適正化 (月に 1 度、数量・状態のチェックを行なう)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎</li> </ul>	最低でも月に一度は在庫数量のチェックを行なっているが、在庫管理のシステムを再考する必要がある。
原料の SDS の授受・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規案件に関しては必ず SDS を受け取り、適正に管理を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎</li> </ul>	新たに取扱う物質に関して、SDS の授受・管理を行なった。
<b>環境配慮</b>			
副資材のグリーン製品使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副資材の選定時、グリーン製品の活用を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> </ul>	顧客に対し、採用を勧めたものの採用には至らなかった。
<b>社会貢献</b>			
会社周辺の清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社周辺にて月 1 回、清掃活動を行なう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎</li> </ul>	従前通り、少なくとも月 1 回のペースにて清掃を実施。

※ 結果： ◎：よくできた、○：まあまできた、△：あまりできなかった、×：全くできなかった

(fig.7.1)

## Ch.8 次年度の環境経営目標と環境経営計画

“Ch.4 環境経営目標”の第 87 期(2024 年度)に記載の数値及び、“Ch.5 環境経営計画”の記載項目を第 87 期(2024 年度)の環境経営目標及び、環境経営計画とする。

## Ch.9 環境関連法規等の順守状況の確認

### a) 当社における環境関連法規等とその評価

適用法令等		評価
労働安全衛生法	原材料の SDS の適正管理	順守
毒物及び劇物取締法	違法な譲渡の禁止（第 3 条の 2、第 4 条の 3、第 14 条）	順守
	適正な管理（第 11 条、第 12 条）	順守
	漏洩等の事故時の適切な対処（第 11 条）	順守
消防法	防火対象物の届け出（名古屋市火災防止条例 第 68 条）	順守
廃棄物処理法	一般廃棄物の処理（K1 の 17、18 / R4 の 4）	順守
名古屋市下水道条例	特定施設無、排出量 50m <sup>3</sup> 未満	順守
グリーン購入法	環境物品の購入(H4 条)	順守
家電リサイクル法	使用済特定家電の引取り業者への適正な引渡し（※）	順守
自動車リサイクル法	使用済自動車の引取り業者への適正な引渡し（※）	順守

※ 期間中、家電・自動車の廃棄はありませんでした。

(fig.9.1)

### b) 違反・訴訟等

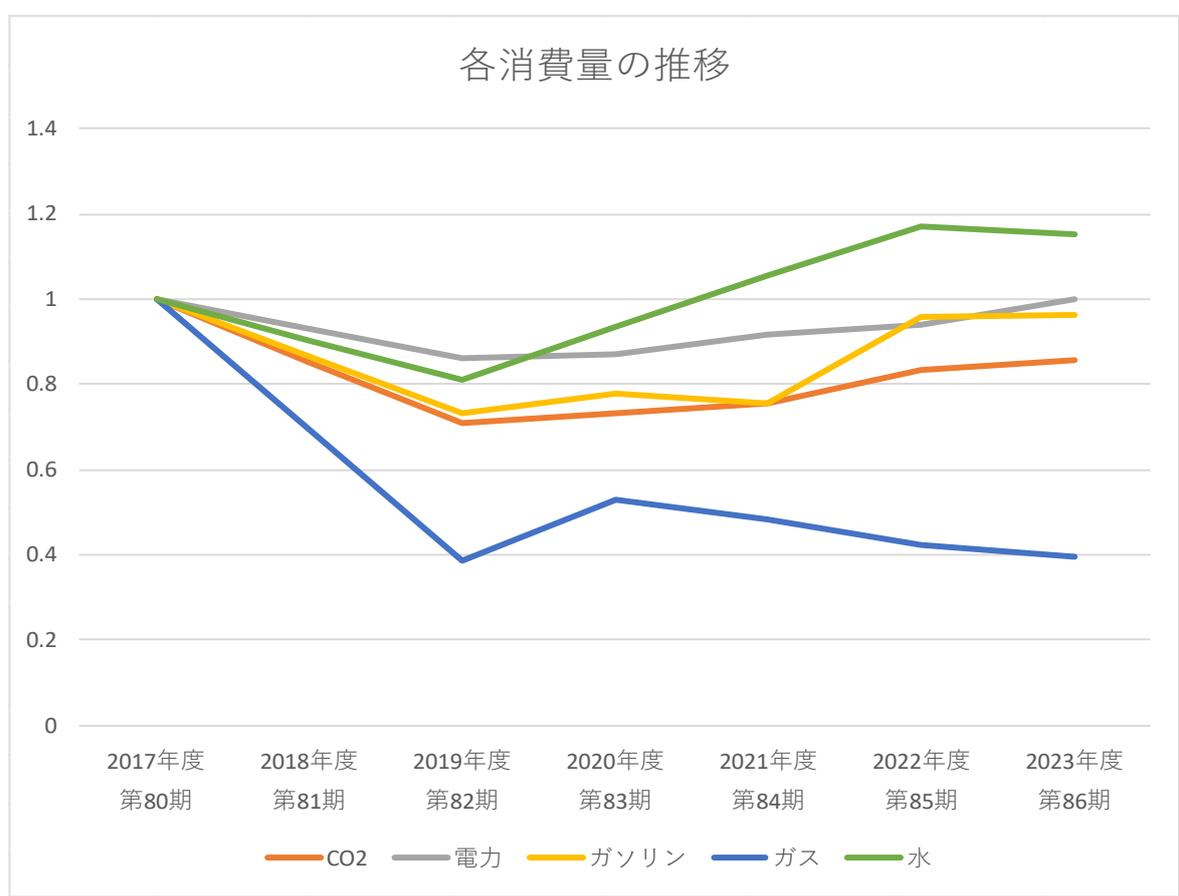
当社に適用される環境関連法規等の順守状況を確認・評価の結果、環境関連法規への違反はありません。尚、関係当局等よりの違反の指摘及び訴訟は、過去 3 年間ありません。

## Ch.10 全体評価と見直し結果・指示

第 81 期（2018 年度）より本活動への取り組み開始致しましたが、その直後よりいわゆる“コロナ禍”による影響が始まり、以降、本活動のみならず、経営全般において現状把握・状況判断が難しい状態が続いておりました。そのような状況の中、弊社の業績は若干の上下動はあるものの、大局的には上向きの基調にあります。

### a) 項目別の評価について

経営目標として数値目標を定めた項目について、下掲(fig.10.1)に初年度の基準年度である第 80 期(2017 年度)の数値を 1 とした各項目の消費量の推移を、下掲(fig.10.2)に前年度である第 85 期及び第 80 期との比較をそれぞれ表にまとめました。



(fig.10.1)

	売上高	CO2	電力	ガソリン	ガス	水
前年度比	- 10%	× + 3%	× + 6%	× + 0%	○ - 7%	○ - 2%
第 80 期比	+ 99%	○ - 14%	○ - 0%	○ - 4%	○ - 60%	× + 15%

(fig.10.2)

今期の本活動の結果は、“Ch.6 環境経営目標の実績”の(fig.6.1)及び、上掲(fig.10.2)の通り、ガス、水の使用量は前年度を下回り、目標を達成しているものの、CO2排出量、電力、ガソリンの使用量においては、前年度を上回り、目標を達成する事が出来ませんでした。

各項目別にみると電力に関しては、従前より行なっております未使用機器の電源オフ等のこまめな電源管理は継続しております。また、機械・照明器具・事務機器・エアコン等の省電力製品への置き換えも継続しておりますが、本取り組み開始以来、順次行なってきたこともあり、一巡した感じがあります。今期置き換えを行なったものは少なかったように思います。

また、ここ数年、一年を通じて気候が例年と異なる傾向が強く、エアコンの使用頻度が増えております。これらの要因から電力使用量が増えているものと思われまます。

ガソリンの使用量に関しては、フォークリフトと営業車で使用となります。フォークリフトに関しては、長年使用している車両の不具合もあり、少し使用量を増加させてしまっているように思います。また、営業車の使用頻度も営業活動の増加に伴い、対前年度比で増加しております。共にエコドライブの実施は継続しておりますが、更なる対策を社内で考える必要があると思ひます。

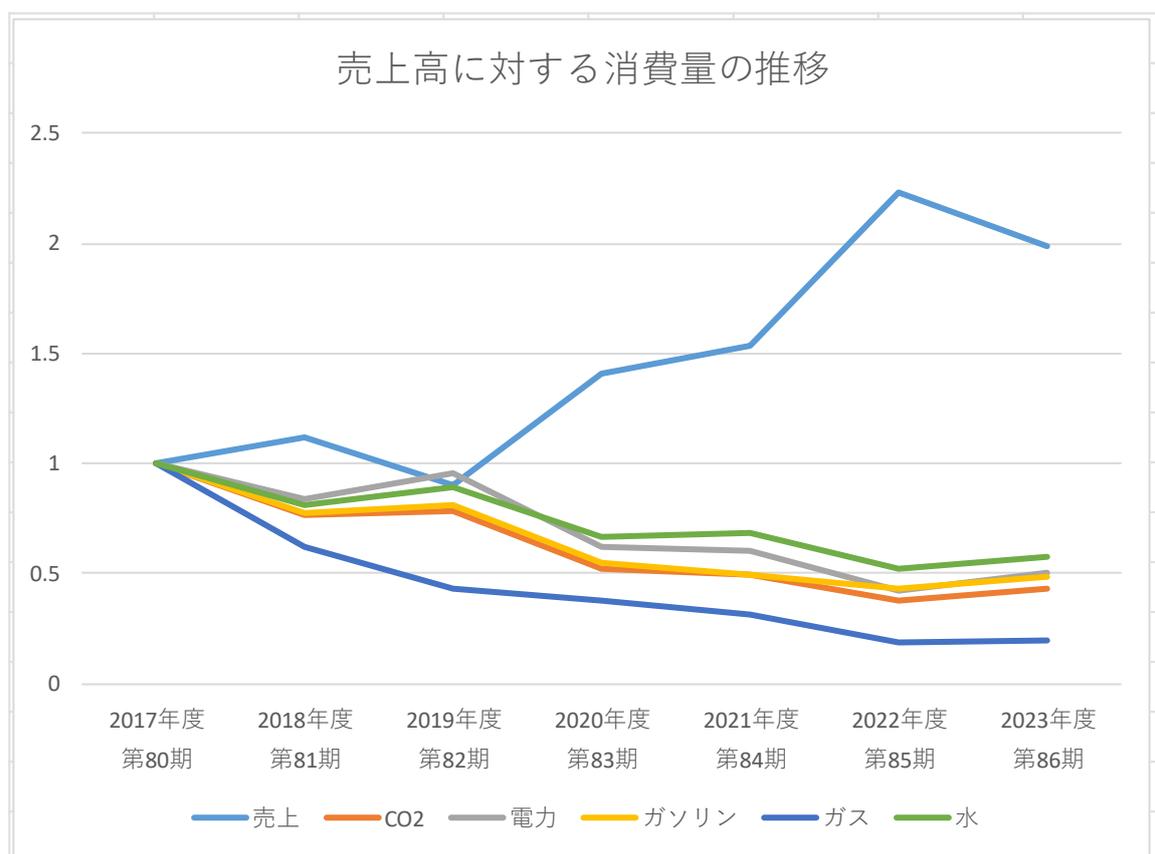
ガスの使用量は対前年度比で減少しております。これは製造時にボイラーを使用する製品の減少が主な原因です。使用日の集約等の取り組みは引き続き継続してまいります。

水使用量に関しては、使用量が減少しております。原料としての水の使用数量が前年度比で約 1 割程度増加しているにもかかわらず、総使用量として減少しているため、こちらは洗浄等で普段使用する際の節水の効果があると思われまます。

## b) 次年度以降の課題について

上掲(fig.10.2)の通り、開始時である第 80 期から考えた場合、一定の削減効果はあるように思ひますが、達成すべき目標設定値である前年比においては、あまり良い結果ではありませんでした。

第 83 期以降、各消費量は増加傾向にあります。これは売上高の増加に伴い、加工量（作業量）も増加している事が主な要因です。しかしながら、今後改善を期待できることもあると思ひております。もう一度社内にて議論を行なおうと思ひております。



(fig.10.3)

近年、売上高の上下動が激しいこともあり、評価基準の一つとして、“各項目/売上高”で求めた値を売上高に対する各項目の消費量の推移として、上掲(fig.10.3)に表としてまとめました。売上高を基とした値を比較してみた場合、各消費量とも上下動を繰り返しているものの、大きくは減少傾向となっております。

近年、弊社の売上高が安定していないことを考量した場合、売上高を基準とした評価方法に移行した方が判断しやすいようにも思います。来年度、環境経営目標を設定する際に、これを踏まえた上で評価の基準・項目・方法の見直しを社内にて検討しようと考えております。

### c) 総評

前年度までは新型コロナウイルス感染症による影響が大なり小なり影響を及ぼしておりました。今年度は、明らかにその影響が薄れ、代わりに物価上昇を含む経済的な要因による経営への影響が顕著に見られます。昨年度の総評で“会社を取り巻く状況が変化し、従前と異なる状況に移っていくと思う”と記しましたが、先の見通しが難しい状況が続いている事には変わりはありません。

冒頭でも述べましたが、弊社は幸いにもコロナ禍以降、大局的には業績を伸ばすことが出来ておりますが、引き続きこれに驕らず、今後予想される状況の変化に柔軟に対応する体制を構築する必要があると考えております。

本活動を始めたことの成果として、社内において、環境への配慮・意識を持つ事が出来るようになってきております。この延長線上として、環境に対してだけでなく、会社の事業全般に対しても、SWOT分析等の手法を用いて議論を行なう等、意識の変化を促すこと事が出来たように思います。

今後も引き続き、本活動を継続し、それによって得られるデータを基に、目標や改善点を設定し、実行していく事は必要であり、有意義な事と考えております。

今後、本活動を継続していくことによって、より一層、環境への配慮・意識を高められるよう、また、その活動を通し、会社全体をより良い方向へ向けるものとすべく、積極的にこの取り組みを推進していきたいと思っております。